



特集 オレンジカフェで

ひとごち

福祉学習等供用施設（旧中央公民館）の一角に、第二・第四金曜日にだけオープンするカフェがあります。入口には、ピンク地にカフェの名前があらわられたのれん。コーヒーのいい香りに誘われてのれんをくぐると、光が差し込む部屋で生け花や絵画が温かく迎えてくれます。

カフェの名前は、「オレンジカフェ」。認知症の人やその介護をしている家族、地域住民が気軽に立ち寄り、楽しく過ごせる場所になるようにと、「新富町介護者の会」が昨年6月にオープンさせました。カフェでは、コーヒーやお茶菓子をいただきながらおしゃべりを楽しむほか、軽いストレッチや歌、将棋などいろいろな活動や体験をすることが出来ます。

新富町版「オレンジカフェ」の母体である「新富町介護者の会」は、メンバーのほとんどが認知症の介護経験者で構成される組織で、平成17年に設立しました。これまで、介護施設を訪問したり講演会を開いたり、認知症について理解してもらうための活動を行ってきました。

会の発起人である会長の宮武キミ子さん（八幡地区）は、認知症だった義母の介護をしていた時に参加した「宮崎県認知症の人と家族の会」の会長に言われた言葉がきっかけで、介護が楽になったと言います。そして、新富町にも認知症に関わる人々が集い、助け合い情報を共有できるような場があればと、知人の協力を得て会を設立するに至りました。

叱ってもらって、目が覚めた気分でした。

新富町介護者の会 会長 宮武キミ子さん

以前の私は、義理の母が認知症になってしまっ、毎日毎日、ひたすら介護をしていました。そんなある日、宮崎市内に「宮崎県認知症の人と家族の会」というものがあることを知って、なんとなく参加してみたいです。その会には、当時の私と同じような認知症の方の介護者がたくさんいらっしゃいました。

その時、会長に「宮武さん、あんた一人でやりすぎよ。」と叱られたんです。それはもう、本気で。最初は驚いたんですが、段々と気持ちが悪くなつて。「ああそうか、一人で頑張らなくていいんだ。」って。それで、新富町にもこんな会があれば、認知症のことで悩む人が減るのでは、と思ったんです。



オレンジカフェとは？

オレンジカフェとは、国が策定した「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」の7本柱のひとつである『認知症の人の介護者の支援』で推進される認知症カフェのことで、認知症の人やその家族が地域住民や専門家と情報共有し互いを理解し合うための場です。オレンジは、「認知症サポーター」の証である「オレンジリング」に由来しています。